

夢と希望 歌に込め

レーベンフロイデ合唱団

10周年コンサート 12月5日 海老名

海老名市を拠点に活動しているアマチュアの混声合唱団「レーベンフロイデ合唱団」(佐藤千津子团长)が今年創立10周年を迎え、12月5日に海老名市文化会館で記念コンサートを開く。1979年の初演以来、幻とされてきた高田三郎さん(1913-2000年)作曲の「ひたすらな道」管弦楽版を30年ぶりに演奏するなど意欲的なコンサートを目指して、練習に余念がない。

レーベンフロイデ合唱団は1999年に結成され、現在、団員は20歳代から80歳代までの約40人。主婦、会社員、定年退職者などさまざまな年代で、乾健太郎さんの指揮のもと、日曜日を中心に市内で練習に励んでいる。

団名はバッハのカンタータ第147番「心と口と行いと生きよきまをもつて」に由来する。

10周年ではカンタータ第147番で、チェンバリスト水永牧子さんと共演する。水永さんの高祖父は海老名出身の教育者・大島正健さん(1859-1938年)。札幌農学校でクラーク博士の薫陶を受け、博士の「少年よ、大志を抱け」という言葉を広く世に伝えたいと知られている。

また、高田さんの混声合唱組曲「ひたすらな道」管弦楽版を東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団とともに30年ぶりによみがえらせる。

団員らは「夢と希望を与える合唱団になろう」と励んできた。10周年を第一歩として、さらに地域をワクワクさせていきたい。『少年よ、大志を抱け』を若い人に思い起こしてもらえればと思う」と話している。

会場は大ホールで午後4時開演。入場料は2千円。チケットは海老名市文化会館(☎046(232)3231)などで取り扱って



10周年記念コンサートに向けて練習に励むメンバーら＝海老名市内

いる。問い合わせは、若山さん☎046(2339)2796。